



地域文化施設の整備に関する いくつかの留意点

建築・デザインから見た地域文化施設の現状と課題は、前述の「建築家・デザイナーからのメッセージ」や後述の「地域文化施設の建築・デザインに関する考察」に詳しいが、併せて施設整備に関する留意点について例示すると、以下のとおりである。

1 建築・デザインの重要性

(1) 優れた建築・デザインの重要性

優れた建築・デザインは、地域文化施設の魅力を形づくる重要な要因である。デザインに関する議論を恐れるあまりに、時代遅れのデザインの施設を建設することは、魅力に乏しい施設をつくることとなり、地域の実情にそぐわないデザイン過剰の施設と同様に、結果として非効率な行政投資となる。地域文化施設の整備にあたっては、万人に好まれる建築・デザインはありえないが、利用者の立場に立って、可能な限り優れた建築・デザインとなるよう努力する必要がある。

(2) デザインに対する十分な検討の必要性

地域文化施設のデザインとは、地域のニーズに対して、いかなる機能で対応し、それを空間的にどのように具体化するかという問題であり、単に建物の外観をどうするかという問題にとどまるものではない。このため施設の初期の構想づくりの段階から、専門家の力を借りながら、地域の実情を踏まえて、どのような建築とするかについて、十分に検討することが必要である。

2 地域の特性に応じた柔軟な施設整備の必要性

(1) 施設の立地状況

地域文化施設の利用可能な圏域の人口や他の同種施設の存否等の条件は、その施設のいわば「市場」条件とでも言うべきもので、地域によって異なっている。例えば、大都市に隣接する小都市のホールと、地方圏の農村地帯の中にある小都市のホールとでは、都市の人口が同じであっても、その観客となりうる圏域の人口は前者の方が圧倒的に大きい。このような条件を十分に勘案し、地域の実情に即した施設の建設・運営を行うことが必要である。

(2) 施設の社会的効用

文化施設が地域にもたらす効用は、観光や近隣商業の振興、直接的又は間接的な雇用創出、民間投資の誘発や良好な街並み形成のほか、地域の知名度アップや教育上の効果など多岐にわたる。しかし、施設を建設するだけで当然にこれらの社会的効用が生ずるものではないので、地域文化施設の整備が目的とす

る社会的効用に結びつくよう、他の行政部門と連携をとりながら、総合的に取り組むことが必要である。

(3) 施設のコストパフォーマンスと適切な維持管理

地域文化施設の整備にあたっては、最小のコストで最大の効果をあげるよう努めることが重要である。例えば、建設当初から低い頻度での利用が見込まれる地域においては、より安価で簡易なデザインの施設づくりを検討する必要がある。建設後の運営にあたっては、建設コストに見合う便益を地域社会に与えることができるよう、施設を活用した諸活動、いわゆるソフト面の充実に努めるとともに、適時適切な改修を含め、維持管理に万全を期す必要がある。

(4) 固定的な観念にとらわれない自由な発想、創意工夫

地域文化施設の建設又はリニューアルの計画づくりにあたっては、専門家にまかせきりにするとか、他の施設を真似るのではなく、地域が自由な発想で主体的に住民のニーズを施設の整備に反映させる工夫を行うことが必要である。

3 利用者本位のデザインの必要性

(1) 備品・内装のコーディネート必要性

地域文化施設を利用する立場から見れば、備品や内装は建物の構造や外観のデザイン以上に重要な要素であるとも言えるが、必ずしも十分に配慮されているとは言いがたい例が多い。施設の整備にあたっては、利用者の立場にたって、これらの点に一層の意を配る必要がある。

とくに備品については、工事請負費と備品購入費が分別して予算計上されていることから、内装にそぐわない備品が購入・設置される例が多い。備品を建築の一部と考えて、総合的にデザインしていくことが求められる。

(2) サインシステムのデザイン

サインシステムも備品と同様、見落とされがちであるが、利用者にとって身近なデザインであることから、施設のイメージを左右する重要な要素となるので、十分な配慮が必要である。

(3) インテリアデザイン、ランドスケープデザインの必要性

地域文化施設の空間的な快適性は、インテリアデザイン及びランドスケープデザインに負うところが大きい。行政の主要な関心は従来、施設の建築本体にあったが、これらのデザインに対しては認識が必ずしも十分と言えないところがあった。利用者の目線で快適な環境を整備するという面から、インテリアデザイン及びランドスケープデザインにも力を入れるべきである。

(4) 高齢者、身障者等への配慮

車いす用の客席や階段のスロープ化等により、高齢者、身障者等が利用しやすい、いわゆるバリアフリーの施設整備が必要である。また、子育て中の親が公演中に子どもをあづけることができるようなサービスの空間についても、施設整備にあたって考慮する必要がある。

4 パブリックエリアの重要性

(1) ロビー、ホワイエ

例えば、ホールの場合の舞台、客席、楽屋といった、いわばホールの本来の機能の部分のみならず、ロビー、ホワイエ等のいわゆるパブリックエリアも、利用者の立場からは重要である。地域文化施設が良質の芸能文化を快適な環境で提供するという事により、住民の生活の質の向上を図るためには、パブリックエリアの充実に意を配る必要がある。さらにパブリックエリアは、そのエリアを広く観客以外の一般に開放し、住民生活の潤いや交流の場としていくことも検討すべきである。

(2) レストランなど多様なサービスの充実

地域文化施設内のバーカウンター、喫茶室あるいはレストランは、魅力ある施設づくりの重要な要素である。これらのサービスの如何が観客、聴衆の満足度を左右する度合いが大きいので、施設整備にあたっては利用者の立場から十分な配慮が必要である。また観客以外の住民に施設を身近に感じさせるためにも、これらは有効であろう。

(3) トイレ

トイレも多くの観客が利用する空間であるので、例えばホールの場合、公演の幕間に女性用トイレの混雑が生じないようにする等、利用者の立場にたって十分な配慮が必要である。

5 地域の主体的な取り組みと 建築家・デザイナーとの協働の方策

(1) 行政と建築家・デザイナーの出会いの場づくり

地域の実情に即した適切な施設整備を図るためには、行政と、建築家やデザイナーとの密接な協働関係を築くことが重要だが、地方では建築家やデザイナーに関する情報が必ずしも十分ではない面がある。意欲ある有能な建築家やデザイナーと地域をつなぐ方策について検討する必要がある。

(2) 住民参加の位置づけ

施設整備にあたっては、十分に住民ニーズを汲み上げることが必要である。また、地域文化施設の検討過程への住民参加についても、それぞれの地域の実情に応じた方法で可能な限り取り入れることが好ましい。

(3) 基本設計のスケジュールの柔軟性

地域の実情を十分に反映した施設の建設・運営のためには、基本設計に十分に時間をかけ、議論を尽くすことが望ましい。行政施策として、計画的な業務の遂行が求められることはもちろんだが、他方あらかじめ設定した事業のスケジュールも検討の過程で必要ならば変更できるような柔軟性も必要である。

(4) 施主としてのプロデュース能力

地域文化施設の整備においては、建築家、デザイナーあるいはコンサルタント等専門家の役割は非常に大きいものがあるが、他方で高度の専門性を理由に、建築関係の職員以外の一般の職員が十分に計画づくりに参画していない例も見られる。しかし計画づくりの過程で、地方公共団体の首長及び一般の職員がいわば施主サイドとして、専門家に対しても臆することなく地域のニーズを主張していくことが必要である。地域の実情に応じた施設整備のためには、もっとも地域の事情を把握している地方公共団体の職員の主体的な参画が不可欠である。

6 街づくりへのインパクト

地域文化施設には、地域の環境（「まち」）と住民の生活の質（「くらし」）の改善を促進することが求められる。このため、整備にあたっては、施設を単体としてとらえるのではなく、周囲の土地利用状況や住民の生活様式を踏まえた上で、それらにもっとも適切な影響を及ぼすような配慮が必要がある。

地域文化施設のデザインは周辺の街並みの形成を景観面でリードすべきものであるので、景観面での適切な影響を及ぼすような建築・デザインとなるよう努める必要がある。

まちづくりの計画に従って、施設周辺にホテル、レストランをはじめ、各種の店舗の立地が促進されることは、利用者の満足の観点からも望ましいと言えるので、周囲の商業施設等のあり方にも十分留意する必要がある。これらの立地が極めて難しい場合は、施設の内部でこれらの機能を補完することを検討することも必要であろう。